

東京臨海部における海上景観の構図特性に関する研究

—事業者パンフレットの掲載写真に着目して—

A Study on the Composition Characteristics of Maritime-Scape in the Tokyo Waterfront Area

- Focus on photographs of the business brochures -

○上原諒太¹, 岡田智秀², 田島洋輔²

*Ryota Uehara¹, Tomohide Okada², Yousuke Tajima²

Abstract: The purpose of this paper is to clarify the maritime-scape elements and composition characteristics from photographs of the business brochures. As a result, clarified compositional characteristics of four maritime-scape.

1. 研究目的; 2020年の東京五輪開催地となる東京港では、観光活用と人員輸送を可能にする水上交通に注目が集まっている^{1) 2)}. この水上交通は、海上を移動しながら海面越しの港湾施設や海面と都市が織りなす非日常的景観が享受できる等、他の交通機関にはない魅力を有していると考えられる。こうした認識のもと先行研究^{3) 4)}では、水上交通利用者の視点から好ましい海上景観とその事業特性について論考したが、事業者目線の魅力的な海上景観要素やその構図特性は未だ明らかにされていない。

そこで本研究では、10年以上継続運航している水上交通事業者5社24コース(表1)を対象に、事業者目線の海上景観要素とその構図特性を明らかにする。

2. 研究方法; 本研究では、都内水上交通事業の市場価値を最大限表現すると考えられる事業者パンフレット(以下; パンプ)の掲載写真(全159枚)のうち、船舶や食事写真、航路から望めない鳥瞰写真を除いた「景観写真」(全40枚)を対象に、表2に示す調査・分析を実施した。

3. 結果および考察; 表3は要素別景観写真(全40枚)の内訳、表4は各構図タイプの特徴を示したものである。

(1) 海上景観要素別の特徴; 表3より、最も多い景観写真は「レインボーブリッジ」(全40枚中6枚(15.0%))、次に多いのは「東京スカイツリー」(全40枚中5枚(12.5%))であった。これらは、新旧の東京観光名所を船上で移動しながら眺められる点が評価されたためと考える。3番目に多いのは「航空機」と「東京の都市群」で

あり、共に全40枚中4枚(10.0%)が該当する。これらは、海上を視点場とすることで内陸の市街地では眺めることのできない離陸する航空機の躍動感や水面越しに水平方向に広がる都市群のスカイラインの美しさが評価されたものとする。

(2) 海上景観の構図特性

1) 都市景観; これは、都市内建造物を主対象とするタイプであり、全40枚中14枚(35.0%)が該当する(表4)。この内、最も多い構図は「タワー主対象型」(6枚)であり、画角下部に水面と隅田川に架かる橋梁や都市群、中央に東京スカイツリー全景、上部に空を配した構図である。主対象の画角の占有割合は比較的小さいが、主対象となる「東京スカイツリー」の話題性や手前に映し出された河川橋梁や都市群とのバランスにより主対象が強調されていると考える。次に多いのは、「都市群バランス型」と「建築物主対象型」(各4枚)である。「都市群バランス型」は、画角下部に広大な水面、中央に水平方向に広がる都市群、上部に壮大な空がバランス良く配された構図である。主対象の画角に占める割合が比較的小さいが、あわただしい日常から離れて海上から「都市群」を眺めることで非日常感が評価されたと考える。一方、「建築物主対象型」は、画角下部に水面、中央に主対象となる建築物単体、上部に空を配した構図である。主対象の画角に占める割合が比較的大きく、建築物への印象を強調させることで、写真の示す場所性を印象づける役割があると考えられる。

表1 調査対象事業者と主なコース名 [参考文献⁴⁾をもとに筆者作成]

No.	事業者名	主なコース (コース数)	写真数	運航開始年
1	(株)東京都観光汽船	TOKYO CRUISE等 (2)	20枚	1971年
2	(株)クルーズクラブ東京	ランチクルーズ等 (4)	9枚	1990年
3	(株)ジール	隅田川クルーズ等 (11)	112枚	1993年
4	(株)ケエムシーコーポレーション	横浜ディナークルーズ (5)	12枚	1998年
5	(株)アーバンランチ	プライベートチャーター (2)	6枚	2007年
計	全5社	全24コース	159枚	

表2 調査概要 [参考文献⁴⁾をもとに筆者作成]

項目	概要
期間	2019年8月2日(金)~9月20日(金) 約2ヶ月間
対象	10年以上継続運航している水上交通事業者(5社24コース)の景観写真(全40枚)
内容	1) パンプの掲載写真から「船舶や食事などの周辺景観以外の写真」や「当該航路から望めない鳥瞰写真」を除外する。 2) 写真の主対象物をもとに都市・港湾・橋梁等の景観分類別に区別する。 3) 各種景観写真の主対象要素と構図によってKJ法でタイプ分類を行う。

表3 パンプ掲載写真の景観要素 [筆者作成]

順位	景観分類	海上景観要素 (主対象)	景観構成要素			総計 (枚)	割合 (%)
			近景	中景	遠景		
1	橋梁	レインボーブリッジ	2	4	—	6	15.0
2	都市	東京スカイツリー	—	—	5	5	12.5
3	航空	航空機	—	2	2	4	10.0
3	都市	東京の都市群	—	4	—	4	10.0
5	港湾	コンテナ埠頭	—	3	—	3	7.5
6	港湾	東京ゲートブリッジ	1	1	—	2	5.0
6	都市	フジテレビ	—	2	—	2	5.0
6	港湾	工場群	—	2	—	2	5.0
6	橋梁	勝どき橋	1	1	—	2	5.0
10	—	その他10要素	4	4	2	10	25.0
		全19要素の合計	8	23	9	40	100.0

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

2) 橋梁景観: 橋梁を主対象とするタイプで全40枚中14枚(35.0%)が該当する(表4)。この内、最も多い構図は「大橋梁主対象型」と「河川橋梁型」(各5枚)である。「大橋梁主対象型」は画角下部にわずかに水面を有し、中央に大橋梁、上部に空を配した構図である。主対象の画角の占有割合が比較的大きく、大橋梁の橋桁や細部のデザインまで視認できる水上交通ならではの景観が評価されたといえよう。また、「河川橋梁型」は画角下部に水面、中央に隅田川に架かる歴史的な橋梁を配する構図であり、前型と比して構造物の規模は小さいものの画角の大部分を河川橋梁で占めることで、河川橋梁の歴史性や存在感を強調したと考える。次に多いのは「大橋梁バランス型」(4枚)であり、画角下部に水面、中央に水平方向に広がる大橋梁の全景、上部に空を配した構図である。主対象の画角に占める割合は比較的小さいが、大橋梁全体のフォルムという、普段内陸ではみることができない主対象自体の雄大さが評価されたといえよう。

3) 港湾景観: 港湾施設を主対象とするタイプで、全40枚中5枚(12.5%)が該当する(表4)。この内、最も多い構図は、「港湾施設主対象型」(3枚)である。画角下部の水面はほとんどなく、主対象となるコンテナふ頭の荷役作業の様子が画角中央に大きく描写された構図である。

表4 構図タイプ別の構成と特徴⁽¹⁾ [筆者作成]

景観分類 枚数/全体割合		1) 都市景観 (14枚/35.0%)			3) 港湾景観 (5枚/12.5%)	
構図タイプ		タワー主対象型	都市群バランス型	建築物主対象型	港湾施設主対象型	工場群バランス型
枚数/割合		6枚/43.0%	4枚/28.5%	4枚/28.5%	3枚/60.0%	2枚/40.0%
構成と特徴		画角下部に水面と橋梁や都市群、中央にタワー、上部に空を配した構図。主対象の画角の占有割合は小さく、手前に映し出された河川橋梁や都市群とのバランスにより主対象が強調している。	画角下部に広大な水面、中央に水平方向に広がる都市群、上部に壮大な空がバランス良く配された構図。あわただしい日常から離れて客観的に都市群を眺めることで非日常感を味わえる。	画角下部に水面、中央に主対象となる建築物、上部に空を配した構図。主対象の画角に占める割合が比較的大きく、建築物への印象を強調させることで、写真のホスピタリティを印象づける。	画角下部にわずかな水面、中央に主対象となるコンテナふ頭の荷役作業の様子が画角中央に大きく描写された構図。画角一面に大きく港湾施設を映し出すことによるスケール感を演出。	画角下部に水面、中央に工場群の光と下部の水面に映し出された倒景とが画角の大部分を占める構図。主対象となる水平方向に広がる工場群と水面倒景を強調することで、幻想的景観を演出。
景観要素	近景	川	海	海	海	海
	中景	都市群(主対象)	建築物(主対象)	都市群(主対象)	港湾施設(主対象)	工場群・倒景(主対象)
	遠景	空	空	空	空	空
水面:空割合		1:9	3:7	2:8	1:9	4:6
構図例						
景観分類 枚数/全体割合		2) 橋梁景観 (14枚/35.0%)			4) 航空景観 (5枚/12.5%)	
構図タイプ		大橋梁主対象型	河川橋梁型	大橋梁バランス型	航空機中景型	航空機遠景型
枚数/割合		5枚/35.7%	5枚/35.7%	4枚/28.6%	3枚/60.0%	2枚/40.0%
構成と特徴		画角下部にわずかに水面、中央に大橋梁、上部に空を配した構図。主対象の画角に占める割合が比較的大きく、大橋梁の裏側や細部のデザインまで視認できる水上交通ならではの景観。	画角下部に水面、中央に隅田川に架かる歴史的な橋梁を配した構図。構造物の規模は小さいものの画角の大部分を河川橋梁で占めることで、橋梁の歴史性や存在感を強調している。	画角下部に水面、中央に水平方向に広がる大橋梁、上部に空を配した構図。主対象の画角に占める割合は比較的小さいが大橋梁の全景という、主対象自体の雄大さを味わえる。	画角下部に水面、中央に航空機、上部に空を配した構図。主対象の画角に占める割合が比較的大きく、飛び立つ直前の航空機のスケール感やその細部の形態が味わえる。	画角下部に水面、中央に誘導路、上部に航空機と空を配した構図。飛行中の航空機を主対象とし、誘導路による航空機への視線誘導効果により、着陸しようとする航空機を強調する。
景観要素	近景	海	川	海	海	海
	中景	橋梁(主対象)	橋梁(主対象)	橋梁(主対象)	航空機(主対象)	滑走路(副対象)
	遠景	空/都市群(副対象)	空	空/都市群(副対象)	空	誘導路(副対象)
水面:空割合		1:9	3:7	2:8	2:8	1:9
構図例						

[凡例] ■:主対象 □:水面 ▨:副対象(主対象を引き立たせると考えられる対象物)

普段内陸からは見ることができない港湾施設の稼働状況に加えて、画角一面に大きく港湾施設を映し出すことで超スケール感を演出したものと推察される。次に多いのは、「工場群バランス型」(2枚)であり、画角中央の工場群の光と下部の水面に映し出された倒景とが画角の大部分を占める構図となる。このように、主対象となる水平方向に広がる工場群と水面倒景を強調することで、両者が織りなす幻想的景観を演出したものと考える。

4) 航空景観: 航空機を主対象とするタイプで、全40枚中5枚(12.5%)が該当する(表4)。この内、最も多い構図は「航空機中景型」(3枚)であり、画角下部に水面、中央に航空機、上部に空を配した構図である。主対象の画角に占める割合が比較的大きいことから、飛び立つ直前の航空機のスケール感やその細部の形態が評価されたと考える。次に多いのは、「航空機遠景型」(2枚)であり、飛行中の航空機を主対象とするとともに、誘導路による航空機への視線誘導効果により、着陸しようとする航空機の躍動感を強調させる構図が評価されたと考える。

補注:(1)表4では、景観分類別にご写真を整理した際、2枚についてはどの構図タイプにも該当しなかったため、合計枚数が38枚となっている。

参考文献:1)新たな水辺整備のあり方検討会:「隅田川等における新たな水辺整備のあり方」, p.6, 東京都建設局, 2014 / 2)東京都HP, <http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappy/press/2019/06/21/04.html> (最終閲覧日:2019.9.20) / 3)水石知佳・岡田智秀・田島洋輔・落合正行:「東京港における海上からみた景観特性に関する研究-視距離と視野角を用いた魅力分析-」, 第72回年次学術講演会講演要旨集, Vol.72, CD-ROM, 土木学会, 2017 / 4)小山美和子・岡田智秀・田島洋輔:「事業者パンフレットにみる水上交通の通勤路と事業特化に関する研究」, 第62回日本大学理工学部学術講演会, Vol.62, CD-ROM, 2018